京都御苑の今後の取組み

－京都御苑庭園基幹施設再整備基本計画の実現に向けて－

京都御苑では、昨年度『京都御苑庭園基幹施設再整備基本計画（平成 20 年３月）』を策定し、安全で快適な公園利用はもとより、近年の地球環境問題等への対応も考えながら、京都御苑の自然環境や人文歴史資源等の情報について、より良く利用者へ伝えていくことなどを目的として、御苑施設の今後の整備に関して方針等を定めました。

本年度は、この方針に基づき、より具体的な整備や適正な管理を行っていくための指針づくりや具体的な作業等に取り組んでいます。

■取組みの概要

京都御苑庭園基幹施設再整備基本計画に定めた基本理念『御所と一体となった特別な空間の風致を維持し、豊かな自然環境を保全し、もって適正な利用を促進する』に基づき、次の３視点から「京都御苑のユニバーサルデザイン化整備指針」、「情報発信等に関するコミュニケーション戦略」、「樹林地等の維持管理指針」の策定を進めています。

① 歴史、文化の継承

京都御苑がもつ歴史的遺産、祝祭空間として利用されてきた文化的景観を次世代に継承するために必要な整備、維持管理、情報収集・発信のあり方を検討。

② 様々な人が“利用できる”“楽しめる”御苑

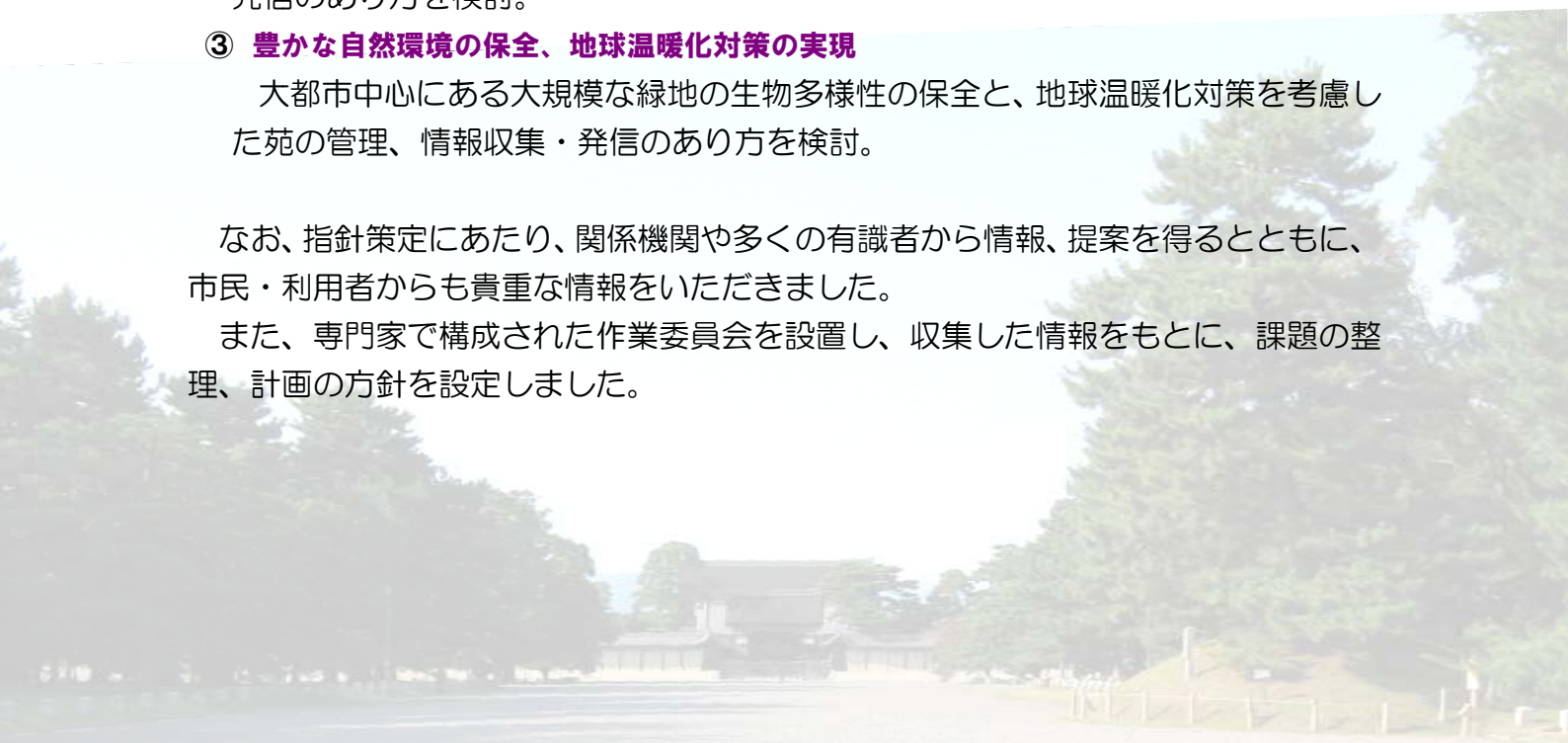
子供から高齢者、障害者、外国人など様々な人が京都御苑を訪れて、快適に利用でき、御苑の歴史・文化、景観を楽しむために必要な整備、維持管理、情報収集・発信のあり方を検討。

③ 豊かな自然環境の保全、地球温暖化対策の実現

大都市中心にある大規模な緑地の生物多様性の保全と、地球温暖化対策を考慮した苑の管理、情報収集・発信のあり方を検討。

なお、指針策定にあたり、関係機関や多くの有識者から情報、提案を得るとともに、市民・利用者からも貴重な情報をいただきました。

また、専門家で構成された作業委員会を設置し、収集した情報をもとに、課題の整理、計画の方針を設定しました。



■バリアフリー化検討のための取組（当時者による調査の実施）

京都御苑のバリアフリー化を検討するにあたり、車いす使用者、視覚障がい者、聴覚障がい者の方に来苑いただき、苑内の主な見どころを紹介しました。

京都御苑の魅力を体験していただくとともに、利用しにくい点、改善が必要な事項について意見をうかがいました。

○ 五感を使って楽しむことができる御苑

触覚を使って、樹木を楽しむ

嗅覚を使って、樹木を楽しむ

○ 御苑で感じるバリア（問題点）

見るだけではわからない施設がある

砂利苑路は通行に負担がある

（砂利が少ないと通行は可能）

■ 関係団体、専門家から意見をうかがいました（順不同）

○関係団体

(社)京都市身体障害者団体連合会、(社)京都府視覚障害者協会、(社)全国背髄損傷者連合会京都支部、京都市聴覚言語障害センター

○専門家

近畿大学　三星昭宏教授

大阪大学大学院　新田保次教授

兵庫県立大学大学院　美濃伸之教授

兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所　北川博巳氏

モデルエリア・ルート図と主な整備の概要

舗装済み苑路

●舗装は現状のままとし、必要に応じ幅員拡幅や退避スペースの設置を行う。

トイレ

●苑路から入口までの舗装改善や視覚障害者誘導用ブロックの設置
●点字案内板や手すりの改良

中立売休憩所・展示ホール

●入口に視覚障害者誘導用ブロックの設置

散策苑路A

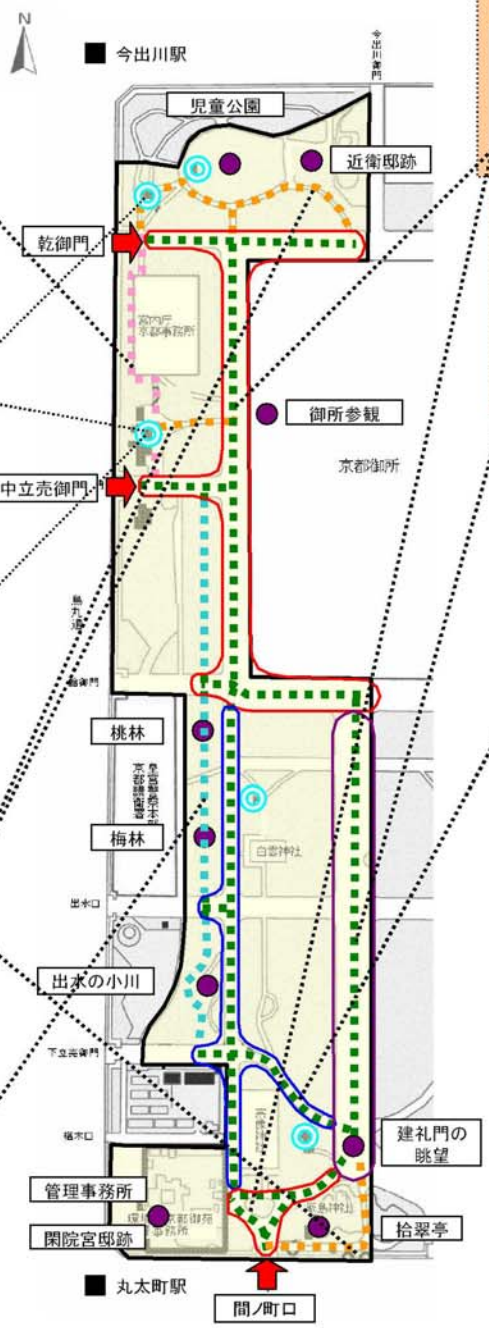
・移動機能重視の苑路として整備する。

●車いす走行が可能な現状の細かい砂利舗装を維持しつつ、必要な箇所に景観的に違和感のない土のイメージ舗装を検討する。

散策苑路B

・視覚だけではなく触覚、聴覚、嗅覚でも楽しむことのできる苑路とする。

●舗装は自然の風合いを生かし、車いす走行も可能な現状の舗装とする。（土固め舗装や木チップ舗装）
●必要に応じ拡幅や退避場所の設置、土のイメージ舗装を行う。
●根廻り保護のデッキ設置により、視覚的な変化や、木に触れる事を可能とする。
●水辺へ近づける苑路整備を検討する。



砂利風合い重視ルート（主苑路）

・御所の周りと来訪時に最初に接する砂利苑路。
・砂利の景観に加え、踏みしめる感覚や音などの風合いの保全を優先に考え整備する。

●当面、砂利補充を抑制することで砂利を薄層に改善し、車いす走行の円滑性を向上させ、利用状況を確認しつつ必要に応じ砂利の風合いを損なわない舗装を検討する。

砂利景観重視ルート（主苑路）

・建礼門方向への歴史的風格を有する砂利景観の保全を重視する苑路とする。

●現状の風格ある砂利苑路を維持することを基本とするが、将来的には必要応じ両端部への石張り舗装を検討する。

移動機能優先ルート（主苑路）

・他の砂利苑路と比べ景観面、風合い面の保全より移動機能を優先する苑路とする。

●当面、砂利補充を抑制することで砂利を薄層に改善し、横断勾配の改善と共に車いす走行の円滑性を向上させ、利用状況を確認しつつ必要に応じて移動機能の向上を目指した舗装を検討する。

モデルルートの凡例

- 主苑路
- 散策苑路A
- 散策苑路B
- 舗装済み苑路

その他の凡例

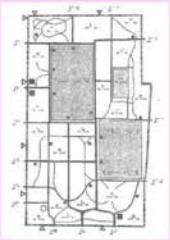
- 起点
- 目的地
- 利用上必要な施設（トイレ、休憩所）
- モデルエリア

案内板

●トイレの位置サインの設置
●総合案内板の改良
●矢羽型案内板の設置や位置案内番号の導入

その他ソフト対応

●耳マーク、筆談器具の設置
●パンフレットの改良と点字地図の設置
●ホームページの充実
●駐車場での障害者等車両駐車料金の適用除外
●ユニバーサル自然観察会の実施
●砂利苑路対応型車いすの貸し出し



点字地図

■京都御苑樹林地管理指針（素案）概要

御苑の森が成立してから 130 年以上が経過し、市街地中心で豊かな生物多様性を維持する貴重な緑となっていることや、CO2 吸収源として寄与してきたことなどから、今後ともこの森の機能を充実させるとともに従来の風致景観管理手法を整理し、森の生き物の保護や都市のヒートアイランドの冷却効果を高める樹林地管理手法等をまとめます。

■ 基本方針（案）

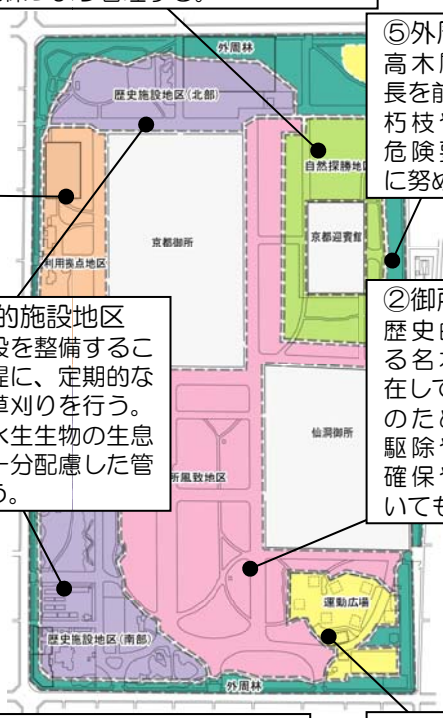
（１） 京都御苑の歴史・文化的資源による優れた景観の維持・向上のため、利用者の視点場や視線方向を考慮し、周辺市街地景観との遮断等適切な管理を行います

（２） 京都御苑の伝統的な樹林地管理を踏まえつつ、市街地中心部における生物の生息環境として重要な緑地の保全を考慮した管理を行います

■ エリア区分毎の管理方針及び管理手法

平成 19 年度に策定した基本計画において、苑内を６区域にゾーニングしました。各区域の整備の方向性を踏まえた管理方針並びに管理手法を整理します。

④自然探勝地地区
子供が自然とふれあえる空間とする。林地内は見通しよく明るい林床を保つよう管理する。



⑤外周林
高木層は自然生長を前提とし、腐朽枝や枯枝等の危険要素の排除に努める。

③歴史的施設地区
歴史施設を整備することを前提に、定期的な剪定や草刈りを行う。野鳥や水生生物の生息環境に十分配慮した管理を行う。

②御所風致地区
歴史的に由緒ある名木が多く存在しており、保護のための病害虫駆除や後継樹の確保や育成についても検討する。

①利用拠点地区
高木が緑陰形成に寄与することを目指し、安全に配慮した管理を行う。

⑥運動広場
利用者の安全に配慮した管理を行う。

■ 管理項目毎の管理手法

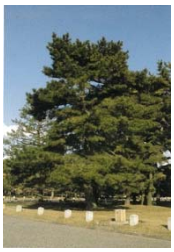
〇樹木

クロマツ・アカマツの高木

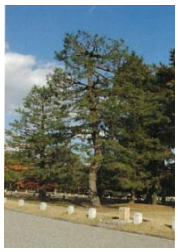
剪定技法は「御所透かし※」により、自然樹形に仕立てる。少なくとも 3～5 年ごとに 11 月～3 月にかけて実施する。対象とする松は、御所風致地区のマツの他、重要木と定めたマツとする。

※【御所透かし（ごしょす）】

「御所透かし」は、京都御所から伝わる独自の剪定手法です。梯子で樹木に登り、長柄鋸長柄鎌を用いて自然風に仕立てます。手入れの前後でその景観に著しい変化がないように注意しています。


手入前

手入中


手入後

〇芝生地

ヒートアイランド効果抑制を進めるため、苑路近くの芝生地において、樹木を植栽するなどして、芝生地と調和した木陰の創出を進める。

〇砂利苑路

周辺環境への影響やCO2削減に考慮した人力除草を基本とする。

■京都御苑での利用者への情報提供等の取扱

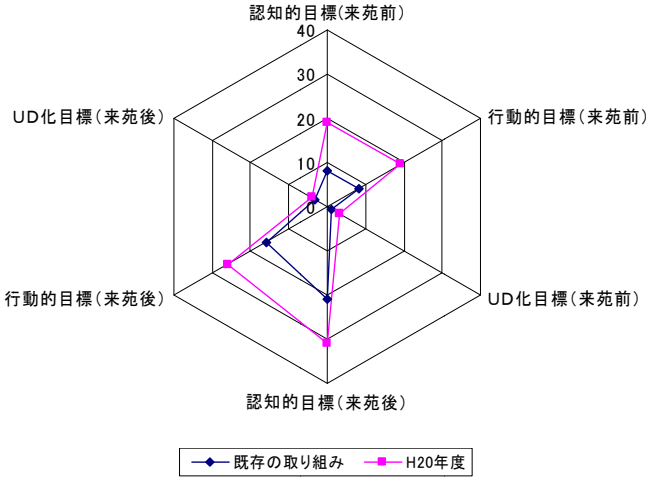
京都御苑の魅力や価値について様々な層の利用者に効率的に伝えること、及びそのための利用者との情報交流に関する取扱（仮称　コミュニケーション戦略）をまとめます。

京都御苑でこれまでに取り組まれてきた利用者への情報発信や利用者との情報交流の場について検証し、足りない分野やテーマについて、対象者を絞り込み、今後のコミュニケーションの在り方について検討を進めます。

■現状分析結果（一部抜粋）

現在、取り組んでいる約 40 事業を対象に、対象者やテーマ等について整理しました。

○ 来苑前のコミュニケーションが少ない状況で、ユニバーサルデザイン化に向けてのコミュニケーションは、現段階ではあまり取り組まれていないことがわかりました。



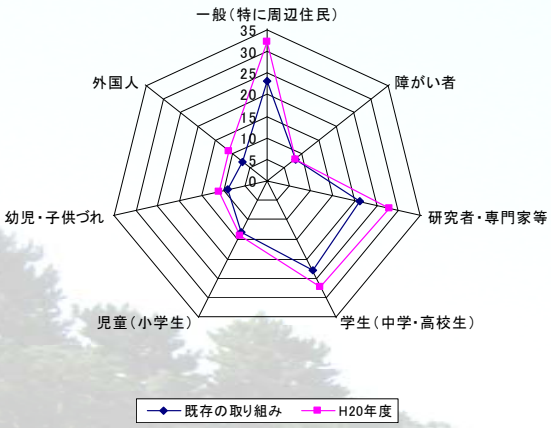
【来苑前後の基本目標の実施状況】

認知的目標：
御苑を知ってもらう、理解してもらう

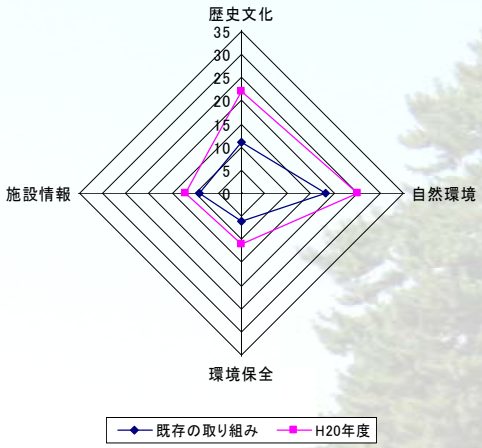
行動的目標：
御苑に来訪してもらう、多目的に利用してもらう

ユニバーサルデザイン（UD）化目標：
苑内を快適に利用してもらう

○ テーマ別では「自然環境」、「歴史文化」に関するコミュニケーションが多く、対象者別では、障がい者、子ども（小学生）、外国人へのコミュニケーションが少ないことがわかりました。



【対象者別の取組状況】



【テーマ別の取組状況】

■コミュニケーション充実のための基本的な考え方（案）

（１）来苑前の情報提供等の充実について

「ユニバーサルデザイン化目標（苑内を快適に利用してもらう）」を達成するために、来苑前に事前情報を確認することが多い障がい者に対して、ホームページなどを活用した情報提供を充実させるなど、来苑前の情報提供等を充実していきます。

（２）「環境保全」、「施設情報」に関する情報提供等について

「施設情報」は、来苑前にホームページ等で施設の状況を確認できるようにします。

「環境保全」分野について、京都御苑では「環境保全」にかかる取組を進める空間として、苑内の資源を活用し、その理解にかかる普及啓発に取り組みます。

（３）「障がい者」、「児童（小学生）・幼児」、「外国人」に対する情報提供等について

必要な情報にアクセスができるよう情報の連続性に配慮した情報発信等の充実を図ります。

「外国人」へは多言語での表記、「児童（小学生）・幼児」には“理解できる情報の提供”、「障がい者」には、障がい特性を考慮した情報発信等の取扱など、きめ細やかな対応を行っていきたいと考えています。

（４）「観光客」への情報提供等について

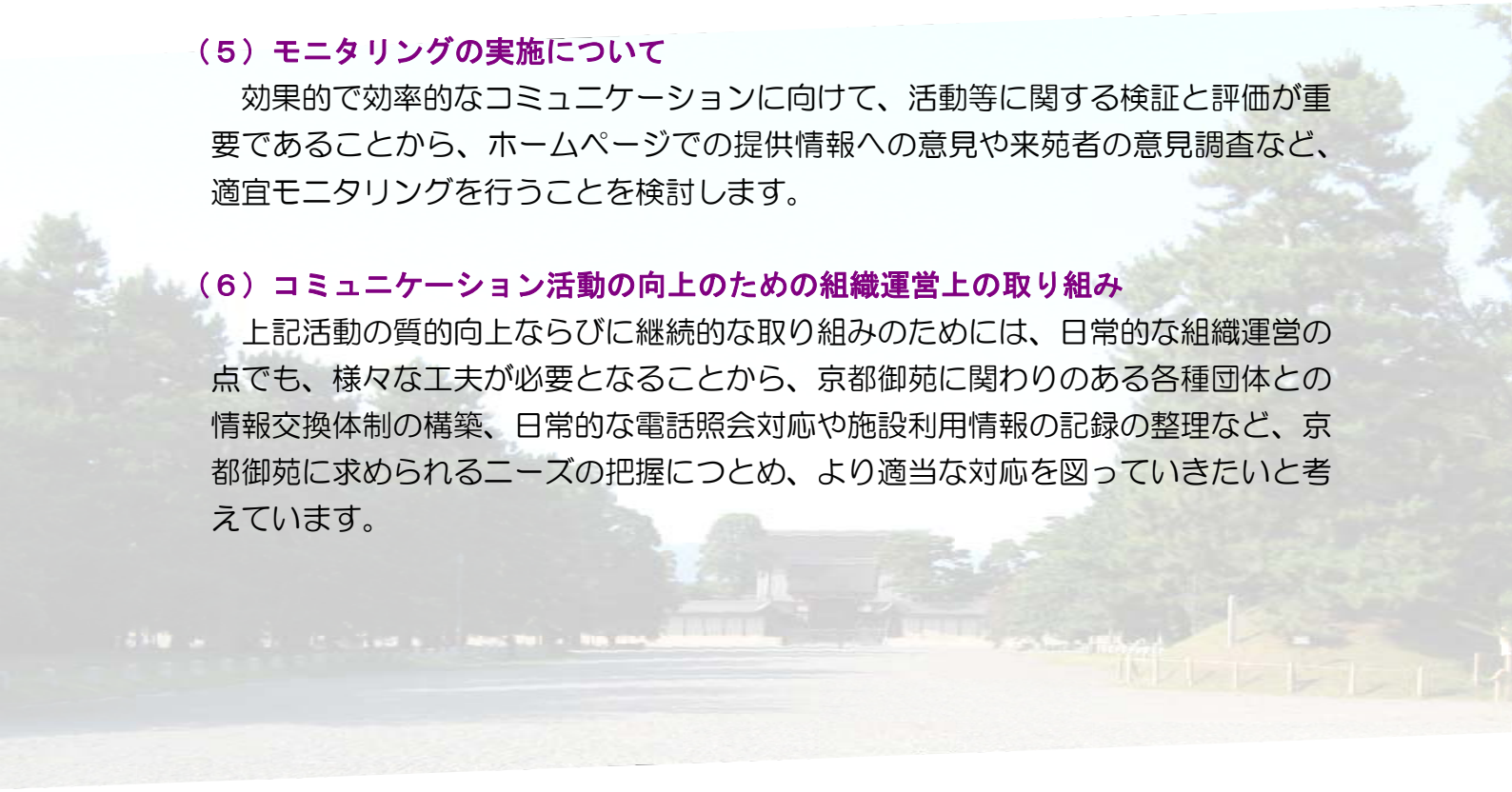
観光客へは、来苑前の情報提供が有用であることから、（１）の来苑前の情報提供等と連携して充実させていきます。また、公共交通等を利用しての来苑者への案内の充実を図るため、関係機関とも調整し情報提供等の改善を図ります。

（５）モニタリングの実施について

効果的で効率的なコミュニケーションに向けて、活動等に関する検証と評価が重要であることから、ホームページでの提供情報への意見や来苑者の意見調査など、適宜モニタリングを行うことを検討します。

（６）コミュニケーション活動の向上のための組織運営上の取り組み

上記活動の質的向上ならびに継続的な取り組みのためには、日常的な組織運営の点でも、様々な工夫が必要となることから、京都御苑に関わりのある各種団体との情報交換体制の構築、日常的な電話照会対応や施設利用情報の記録の整理など、京都御苑に求められるニーズの把握につとめ、より適当な対応を図っていきたいと考えています。



【平成 19～20 年度に取組を試行したコミュニケーション施策一覧】

■平安王朝の夜ライトダウン

延べ 4 日間で 7900 人(推定)の参加がありました。マスコミや市民ブログ等にとりあげられました。

■京都博物館施設連絡協議会公開講座

当日参加は約 50 名程度。事前の応募者数は定員を上回り、歴史解説を伴う御苑散策のイベントニーズがあることが確認されました。

■歴史散策の集い（中山邸公開含）

明治天皇産屋がのこる中山邸来場者は約 3000 人弱。利用者から再度の企画実施を望む声が多数寄せられました。

■近畿の自然展

吉野熊野国立公園等を中心とした近畿地方環境事務所所轄の国立公園の自然情報を提供する企画展を行いました。

■国際交流ボランティア団体「英語で京都をガイド」

平成20年12月に京都御苑内でのガイドを試行。事務所職員が解説員として出役。

■写真でみる京都御苑

平成 21 年 1 月 20 日以降 3 月末まで実施。マスコミの報道によって来苑する方も多くありました。

■歴史ふれあいの道

平成 20 年春設置の歴史案内看板をたどる御苑の歴史資源情報に触れるモデルコース。京都市の観光情報提供等でとりあげられ、利用が進んでいます。

■JICA 研修対応

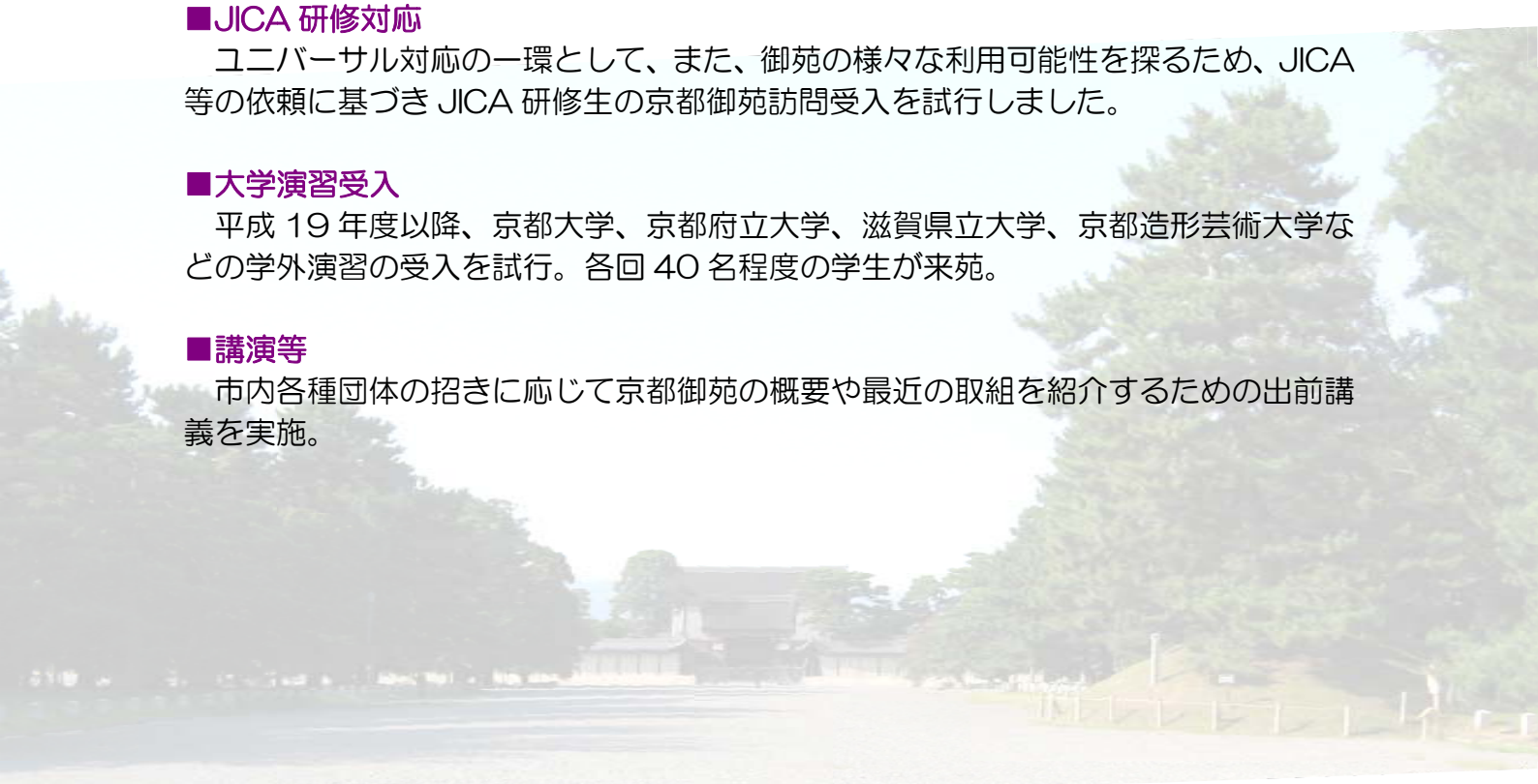
ユニバーサル対応の一環として、また、御苑の様々な利用可能性を探るため、JICA 等の依頼に基づき JICA 研修生の京都御苑訪問受入を試行しました。

■大学演習受入

平成 19 年度以降、京都大学、京都府立大学、滋賀県立大学、京都造形芸術大学などの学外演習の受入を試行。各回 40 名程度の学生が来苑。

■講演等

市内各種団体の招きに応じて京都御苑の概要や最近の取組を紹介するための出前講義を実施。



京都御苑について、情報提供や情報交流を行う媒体や場所、行事等を抽出し、それらの役割（来苑前の情報提供等につながるものか、来苑後に関するものか等）、情報の内容、対象者等について整理した表

				配布				施設等							施設＋職員			職員							イベント						小計		計
				ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ	御苑ﾆｭｰｽ	季節のたより	ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ	中立売ﾎｰﾙ	中立売休憩所掲示	富小路休憩所掲示	野外文庫	苑内案内板	森の博物館（主に解説板）	御苑ﾉｰﾄ	閑院宮邸跡	ﾚｸﾁｬｰﾎｰﾙ	拾翠亭	職員通常業務対応	苑内利用届	ｸﾞﾗﾝﾄﾞ利用	巡視案内	苑内作業中の対応	造園実習受入	中学生体験学習受入	自然教室	ﾄﾝﾎﾞ池公開	葵祭	時代祭	御所一般公開	迎賓館公開	来苑前	来苑後	29
目標	目標のタイプ	来苑前	認知的目標（認知率、理解度のアップ）	○	○	○	○											○					○	○	○	○					9		9
			行動的目標（来訪行動、多目的利用行動）	○	○	○	○											○					○	○	○	○					9		9
			UD化目標（苑内移動のｽﾑｰｽﾞ化、快適利用）																												0		0
		来苑後	認知的目標（認知率、理解度のアップ）	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○			○	○	○	○	○	○						19	19
			行動的目標（多目的利用行動）	○	○	○		○			○	○	○		○	○	○	○			○	○	○	○	○	○						17	17
			UD化目標（苑内移動のｽﾑｰｽﾞ化、快適利用）															○			○	○										3	3
	テーマ	魅力紹介	歴史文化	○	○		○	○				○			○	○	○	○				○	○	○							5	11	16
			自然環境	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○				○	○	○	○	○					8	17	25
		管理運営	環境保全		○		○								○	○		○					○	○		○					6	7	13
			施設情報	○	○		○								○			○	○	○	○	○	○	○							5	7	12
	対象者	市民	一般（特に周辺住民）	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	5	15	20
			障がい者												○			○			○	○					○	○	○	○	1	2	3
			研究者・専門家等		○		○	○	○	○		○		○	○	○	○	○			○	○	○				○	○	○	○	4	12	16
			学生（中学・高校生）	○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	7	14	21
			児童（小学生）					○			○		○	○		○		○		○	○	○			○	○	○	○			3	8	11
			幼児・子供づれ			○					○		○	○				○			○	○					○	○	○		2	3	5
			外国人				○（英語）					○（英語）		○	○（英語）			○（英語）									○	○	○	○	2	4	6
		観光客	一般	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○					○	○	○	○	4	12	16
			障がい者												○			○			○	○					○	○	○	○	1	2	3
			修学旅行生（中学・高校生）	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○					○	○	○		4	12	16
			児童（小学生）					○			○		○	○		○		○	○		○	○					○	○	○		1	5	6
			幼児・子供づれ								○		○	○				○			○	○					○	○	○		1	3	4
			外国人	○（4ヶ国）			○（英語）					○（英語）		○	○（英語）			○（英語）									○	○	○	○	3	4	7
手法	発信方向	発信		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9	17	26
		受信					○							○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○					5	7	12
	行動刺激策(非日常性)						○									○							○	○	○	○	○	○	○	○	5	6	11
モニタリング（効果測定手法）																															0	0	0
小計				9	10	3	14	10	6	6	10	10	10	12	15	12	8	19	5	5	14	16	8	8	6	8	15	15	15	10	9	17	26
影響度				年間5万部印刷。京都駅や周辺宿泊施設でも事前配布	年間4回、計9万部発行。京都駅や周辺ホテル等でも配布	毎月約50部程度を要望のある幼稚園へ送付	閲覧回数不明				蔵書数500		看板19基		H20年4～12月の利用者数約2万8千人	特別展（環境問題パネル掲示）やシンポジウム利用等	H20年4～12月の利用者数約9千9百人(金土)、茶室84件										多数の利用がある	多数の利用がある	年間30万人程度の利用	多数の利用がある		
備考				発信方法に難有	対象者・内容の再検討		障害者対応検討	活用策要検討				障害者対応検討 御所からの誘導方法検討		意見の扱いについて要検討。活用策要検討	見どころの効果的見せ方要検討	活用策要検討						H20年秋、協会職員へ御苑歴史資源に係る研修を実施			子ども・障がい者の参加促進	障がい者の参加促進	催事に合わせ関院宮邸跡、拾翠亭公開程度	催事に合わせ関院宮邸跡、拾翠亭公開程度	催事に合わせ関院宮邸跡、拾翠亭公開程度				

				(*)平成19末～20年度試験的事業												小計	H19～20年度合計		
				平安王朝	博物館講座	歴史散策	近畿の自然展	英語でｶﾞｲﾄﾞ	職員展示（予）	ふれあいの道	職員解説	ﾒﾃﾞｨｱ対応	JICA研修受入	大学演習受入	講演等	12	来苑前	来苑後	41
目標	目標のタイプ	来苑前	認知的目標（認知率、理解度のアップ）	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	11			20
			行動的目標（来訪行動、多目的利用行動）	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	11			20
			UD化目標（苑内移動のｽﾑｰｽﾞ化、快適利用）									○	○			2			2
		来苑後	認知的目標（認知率、理解度のアップ）	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		10			29
			行動的目標（多目的利用行動）	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		10			27
			UD化目標（苑内移動のｽﾑｰｽﾞ化、快適利用）										○			1			4
	テーマ	魅力紹介	歴史文化	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	11	16	22	27
			自然環境				○		○		○	○	○	○	○	7	15	24	32
		管理運営	環境保全	○			○						○	○	○	5	11	12	18
			施設情報										○	○	○	3	8	10	15
	対象者	市民	一般（特に周辺住民）	○	○	○	○		○	○	○	○			○	9	14	24	29
			障がい者													0	1	2	3
			研究者・専門家等	○	○	○	○			○				○	○	7	11	19	23
			学生（中学・高校生）				○		○	○	○					4	11	18	25
			児童（小学生）								○					1	4	9	12
			幼児・子供づれ				○		○							2	4	5	7
			外国人					○	○（英語）	○（4ヶ国）			○			4	6	8	10
		観光客	一般	○	○	○	○		○	○						6	10	18	22
			障がい者													0	1	2	3
			修学旅行生（中学・高校生）				○		○	○						3	7	15	19
			児童（小学生）													0	1	5	6
			幼児・子供づれ				○		○							2	3	5	6
			外国人				○		○（英語）	○（4ヶ国）						3	6	7	10
手法	発信方向	発信		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	21	29	38
		受信				○		○			○		○	○		5	10	12	17
	行動刺激策(非日常性)			○	○	○							○	○		5	10	11	16
モニタリング（効果測定手法）				来訪者数調査												1	1	1	1
小計				8	6	7	11	4	11	9	7	4	8	8	7	12			
影響度				延4日間で7900人の利用		3千人程度の利用													
備考																			